

注目のスポーツ

クレ-射撃 観戦のススメ

日立建機にはシンボルスポーツとしてクレ-射撃部があり、所属の中山由起枝選手が活躍中です。クレ-射撃観戦を楽しむべく、競技についてご紹介します。

イラスト/大庫真理

散弾銃を用いて、飛行する標的(クレ-)を撃ち落とした数で順位が決まるクレ-射撃。オリンピックや国体の正式種目でもあり、年齢・性別に関係なく楽しめる生涯スポーツ。

散弾銃の1発の衝撃は約800kgから1トン！この衝撃に耐えられるよう、体幹や下半身のトレーニングが欠かせない！

2016年リオオリンピックでは、最年少16歳、最年長56歳の選手が参加と年齢層が幅広い！

クレ-射撃の道具は？

イヤーマフ



目を守るために使用する。

シューティンググラス



目の保護と太陽光を偏光する効果を持つ。

クレ-

直径11cm、厚さ25mmの円盤状の素焼きの陶器。

散弾銃



散弾穴包を発射できる銃。鳥獣にも使用される。

装弾

鉛の弾を飛ばすための火薬が入っている。



日本国内では銃刀法のため原則、20歳から散弾銃の「所持許可」を申請することができます。



日立建機クレ-射撃部
中山 由起枝
Yukie Nakayama

クレ-射撃歴24年。2020年3月に順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科を修了。お子さんを育てながら現役で活躍するママさんアスリートとしても注目される。



クレ-射撃の日本トップアスリート

中山由起枝選手は高校時代、ソフトボール選手としてインターハイで活躍。日立建機にスカウトされ、入社後18歳で約1年間イタリアへ射撃留学し、基礎から射撃を学びました。そして射撃歴1年11か月でシドニーオリンピック(2000年)の出場権を獲得。その後も、北京オリンピック(2008年)、ロンドンオリンピック(2012年)、リオデジャネイロオリンピック(2016年)に出場。北京オリンピック4位入賞のほか、第16回アジア競技大会(2010年)の女子トラップ種目で日本人初の金メダルを獲得するなど数々の国際大会での優勝経験があります。5度目の出場となる東京2020オリンピックにも内定し、さらなる活躍が期待されます。

クレ-射撃とは？



静まる空気の中で放たれる大きな発砲音。射撃競技には独特の緊張感が漂います。クレ-射撃は散弾銃を使用して、直径11cm、厚さ25mmのクレ-と呼ばれる円盤状の素焼きの陶器を撃ち落とす枚数で得点を競います。

固定された標的を撃つライフル射撃と違い、飛び出したクレ-の動きを銃口の先で捉えながら冷静に状況を判断するため、高い集中力と鋭

い反射神経が必要とされます。また、クレ-射撃には、クレ-放出機からランダムな方向に飛び出す「トラップ」と、左右2カ所にある発射台から同時に飛び出す「スキート」の、主に2種目があります。

イラストでは、日立建機クレ-射撃部の中山由起枝選手が専門とするトラップ種目について紹介しています。

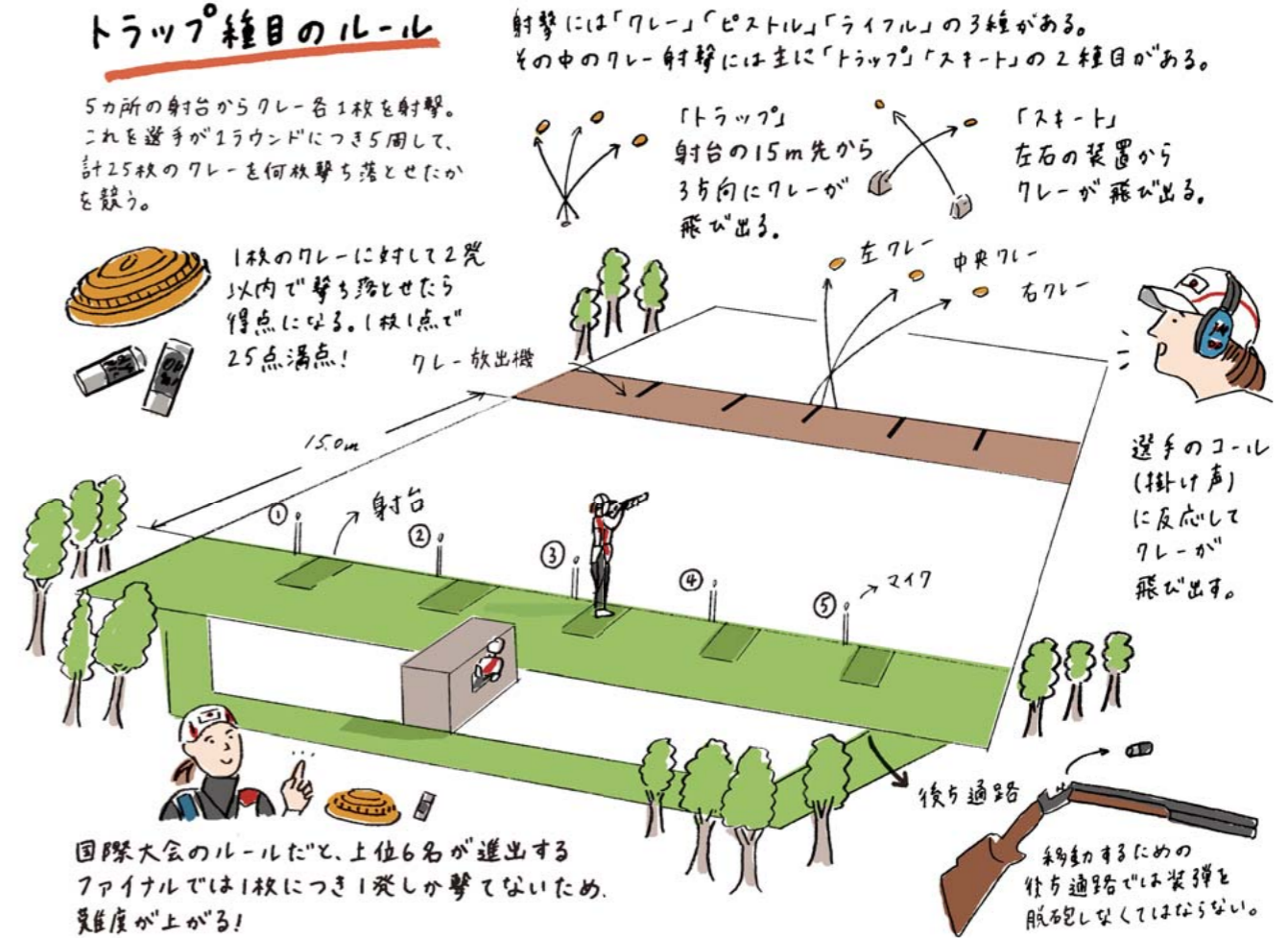
トラップ種目のルール

5カ所の射台からクレ-各1枚を射撃。これを選手が1ラウンドにつき5回して、計25枚のクレ-を何枚撃ち落とせばかを競う。



1枚のクレ-に対して2発以内で撃ち落とせば得点になる。1枚1点で25点満点！

クレ-放出機



国際大会のルールだと、上位6名が進出するファイナルでは1枚につき1発しか撃てないため、難度が上がる！

日立建機クレ-射撃部の活動

日立建機クレ-射撃部は1997年に創部しました。現在、部員は中山由起枝選手の1名。クレ-射撃を当社のシンボルスポーツとして、創部から選手育成までゼロからスタートし、国際大会での活躍をめざすことがきっかけでした。国際大会出場前の社内社行会の実施や、現地での応援団を結成するなど、日立建機グループ全体で中山選手の活躍を応援しています。また、年に1度、土浦工場で開催している「日立建機フェスティバル」では、クレ-射撃を体験できるシミュレーターを設置。地域の皆さまにも、競技を身近に感じていただけるような取り組みを行っています。



中山選手のこれまでの経験から「夢を持つことの大切さ」を伝える講演活動など、社会貢献活動も行っています(左)。2016年の社内社行会(右)。